

N/A班 → プレス対応チーム

取次 関野

プラント状況 (本店会見) 議事メモ

10/10 16:10 広報部

日時：平成 23 年 10 月 10 (月) 11:00~12:05

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者 15 名 (カメラ 4 台)

当方：原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (10 月 10 日 6:00 現在)
- ・ 【画像】福島第一原子力発電所 1 号機 原子炉建屋 1 階 格納容器スプレイ系配管切断風景

からプラント状況に関して説明。

質疑：

Q. 配管の切断作業はすべて終了したということか。

A. 切断は終わっている。準備が整ったところで格納容器ガスサンプリング装置のつなぎ込みを行う予定である。

Q. 下部切断部を溶接で塞ぎ、上部切断部をテープで塞ぐとのことだが、なぜ対応が異なるのか。

A. 下部切断部は使用せず、上部切断部には格納容器ガスサンプリング装置をつなぎ込むためである。

Q. 閉塞作業をしているが、窒素置換を継続しているとはいえ、今後の水素濃度の測定頻度についてはどのように考えているのか。

A. これまで水素濃度は適宜確認しており、ほぼ 0% であることを確認している。今後、どのような頻度で水素濃度を測定管理していくかは確認させていただく。

Q. アレバの除染装置は依然止まっているとの理解で良いか。

A. キュリオンのみで水処理をしている状況。

Q. 蒸発濃縮装置が全台停止しているのはなぜか。

A. 全体の水バランスを見ており、まずは RO 膜式装置のみの処理で足りている状況。特段トラブルが発生しているわけではない。

Q. なぜ格納容器スプレイ系配管に水素が溜まったと考えているのか。

A. M011 弁と M012 弁の間に溜まっていた水素が M012 弁を開けた際に出てきたものと考えている。配管が立ち上がっている箇所は窒素を入れても抜ける場所が無ければ溜まってしまい可能性が考えられる。

Q. 他の号機についても同様に水素が溜まっている可能性があるのではないかと。  
A. 2, 3号機についても溜まっている可能性はあるので、作業をする際には水素の確認はするよう原子力安全・保安院からも指導を受けている。

Q. 1号機の当該切断部において、本日、作業予定はあるのか。  
A. 本日は特段ない。適宜、水素濃度の測定は安全管理上する実施するかもしれない。

Q. 1号機建屋カバーの完成時期の見通しは。  
A. 計画としては10月中であるが、具体的な日程はまだ決まっていない。

Q. 低濃度汚染水を構内に散水したが、その際の汚染度合いを教えてください。  
A. 10月7日に配布させていた資料にもあるとおり、ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 とともに検出限界値未満 (ND) となっている。各検出限界値はヨウ素 131 が  $4.7 \times 10^{-3}$  未満、セシウム 134 が  $9.7 \times 10^{-3}$  未満、セシウム 137 が  $1.2 \times 10^{-2}$  未満である。

Q. 散水する水は無害という認識で良いか。  
A. 明確な基準はないが、環境省から示されている水浴場の指針で定められている数値 (ヨウ素 131 が  $3 \times 10^{-2}$ 、セシウム 134 とセシウム 137 併せて  $5 \times 10^{-2}$ ) よりも下回っている状況である。

Q. 人が飲んでも問題のないレベルなのか。  
A. 飲用ということは想定していない。水浴場の指針なので、口の周りに付着すること等は想定されるので、害はないと思う。

Q. 散水する水はどのように濃度測定をしているのか。  
A. 福島第一原子力発電所でサンプリングしたものをバックグラウンドの低い福島第二原子力発電所に輸送し、濃度測定をしている。

Q. 測定する過程において、第三者や公的機関の立ち会いは受けているのか。  
A. 測定状況については現地の原子力安全・保安員の保安検査官も確認可能な状況であるが、実際に立ち会っているか等、どのようにしているかについては確認する。

Q. 現状、記者が現地に立ち入ることも許されておらず、東電の情報を信じるしかない状況であるならば、飲んでも大丈夫だということを世の中に示すべきではないか。  
A. 汚染の程度をお知らせしているもので、飲むために示しているものではない。

Q. 冬の防寒対策の検討状況を教えてください。  
A. 特段聞いていない。通常時の同じく、暖房等は用意することになると思う。新たな対策等が出てきた際にはお知らせさせていただく。

Q. 今冬の需給はどのように見込んでいるのか。  
A. 現在精査中であり、現時点では見通せていない状況だが、5,300万kW前後の供給力確保は可能と考えている。

- Q. いわきと相馬の火力を焚き増すとの情報があるが、詳細計画を教えてください。
- A. 常磐共火勿来6号は24年夏に運転開始予定。7号機は23年末までに復旧予定。相馬共火1、2号機については23年末までに運転を開始したいと考えている。

( ) からのお知らせ)

- 福島県沖でマグニチュード6の地震が発生し、現時点で発電所に特段異常はない。

- Q. すべて配管が切断された写真があれば提供願いたい。
- A. 確認させていただく。

- Q. 切断箇所に格納容器ガスサンプリング装置を設置する工程はどの程度を考えているのか。
- A. 装置自体は現地に到着していない状況である。年内に1～3号機ともに格納容器ガスサンプリング装置を取り付けたいが、詳細工程についてはわかり次第お知らせさせていただく。

- Q. 10月8日に配布した写真でお示しする福島第一原子力発電所の現状内にある写真の撮影日にて、1～4号機のうち、1号機のみ撮影日が異なるのはなぜか。
- A. 写真は適宜最新のものをご用意させていただいている。1号機に関しては、建屋カバーの設置もあるため、最新の画像をご用意させていただいたものと考えている。

( ) からのお知らせ)

- 11:46 福島県沖でマグニチュード5.6の地震が発生、浜通りでは震度4を確認。
- 炉注水、モニタリングポスト、水処理施設、仮設電源、窒素注入、使用済燃料プール冷却には特段問題なし。
- 気象庁によると津波警報等はない。
- 念のためO.P.4m以下における作業は中断している。
- 基幹系統に異常なし。

- Q. O.P.4mというのはどの程度の高さか。
- A. 海周りの高さがO.P.4mの高さになる。

以上

11/190 [Redacted]

(初稿) (開封)

暫定版

情報共有

非管理メモ

NISA非 ← プラス対応

(3枚)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 10 月 10 日 (月) 18:00~18:40  
 場所：東京電力本館 3 階大会議室  
 先方：記者約 20 名 (カメラ 3 台)  
 当方：原子力・立地本部 [Redacted]  
 原子力設備管理部 [Redacted]  
 広報部 [Redacted]

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第百九十九報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について (第百九十二報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水に含まれる放射性物質の核種分析の結果について (10 月 9 日採取分)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (10 月 10 日 12:00 現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 1 号機原子炉建屋 1 階 格納容器スプレイ系配管切断箇所風景

[Redacted] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 1 号機格納容器スプレイ系配管切断作業について、今後も配管内の水素の計測は継続的に行うという理解でよいか。

A. 配管内は酸素がほとんど無く、水素も 4% 以下であるので、水素が燃焼する可能性はきわめて低いため、今後は水素の検出については、作業時以外は行わない予定である。水素濃度を測るのは 84 弁の出口と、ガス管理システムを接続する部分であり、ガス管理システムを取り付ける際には水素濃度を検出する。本日は除湿装置を搬入し、今後、設置作業を行う予定。

Q. 本日搬入した除湿装置はなぜ必要なのか。

A. ガス管理システムはプロワで格納容器内の気体を吸い出し、フィルターを通して外へ排出するものである。湿度が高いと吸着力が落ちるので、除湿装置により乾燥させる。格納容器内はほとんど飽和水蒸気だと思われるので、冷却する事で結露させ、水を取る除く仕組みになっている。

Q. 今後、配管の切断作業を行う予定はあるのか。

A. 1 号機は昨日切断が終了している。2、3 号機については、可燃性ガス温度制御系の所から接続する予定であり、キャップを外すことでガス管理システムの接続が可能

なので、配管を切断する予定はない。

Q. 配管切断作業の時系列を教えてください。

A. 配管の切断の完了が22時30分であり、ポリキャップをテープ養生により閉止する作業は23時05分から23時10分、閉止板の溶接作業は0時04分から0時37分までである。下部切断箇所の写真については、溶接作業が終わった後に撮影したもの。

Q. 配布資料の写真は2箇所の切断部が分かれて写っているが、1枚の写真に収まっているものは撮影していないのか。

A. 撮影していない。

Q. 今後の作業の中で、ガス管理システム設置のスケジュールを教えてください。

A. 工場で製作が終了したものから順次搬入する予定。2、3号機は1号機より先行して作業が進んでいるため、10月中には2、3号機のガス管理システムの制御系の接続作業を始めたい。詳細の日時については未定。

Q. 格納容器スプレイ系配管切断箇所下部は、どこに繋がっているのか。

A. 熱交換器を経由して圧力抑制室に繋がっている。

Q. 切断面を溶接により養生している理由は。

A. 今後使用する予定がないこと、および最終的には格納容器に繋がっているもので、溶接による養生を実施する方が安全上良いと判断したため実施したもの。なお、酸素濃度および水素濃度が可燃限界以下であることを確認した上で実施している。

Q. 配管切断箇所下部から水素が流れてきていた可能性はあるのか。

A. 配管は圧力抑制室に繋がっており、配管の先は水封されているので、水素が流れてくる可能性は低いと考えている。

Q. 先日の会見で、東電には企業倫理相談窓口にて匿名での通報ができる仕組みがあるとのことであったが、発電所での周知方法はどのように実施されているのか。

A. 発電所での周知方法については現在確認中である。原子力安全・保安院にも同様の制度があると思うが、これは法律で定められているものと認識している。当社の相談窓口はホームページに記載されているが、協力企業の皆さんにどのような形で周知徹底されているかについては現在確認をさせて頂いている。

Q. 東電のホームページには、企業倫理相談窓口の連絡先が載っていないが、その理由は。

A. 確認する。

Q. 2号機原子炉建屋地下の水位計はなぜ不調なのか。

A. 確認する。

- Q. 1号機のサプレッションプールサージタンクの水位は。  
 A. 計測できていない。原子炉建屋水位は O.P. 4, 493mm で床面からは 5, 723mm である。地下1階の高さがおよそ 11m なので、半分くらいが水に浸かっている状態である。圧力抑制室は通常でも半分程度水が浸かっており、格納容器スプレイ系配管の先は水封されていると考えている。
- Q. 今回1号機の格納容器スプレイ系配管を切断するにあたって、配管内の水はどこに排水されたのか。  
 A. 原子炉建屋の地下1階に排水している。
- Q. 1号機の原子炉建屋カバーは、いつ頃設置完了するのか。  
 A. パネルについては本日までに 58/62 ピースの設置が完了している。残りは屋根パネルが4枚であるが設置完了時期は未定。
- Q. 早ければ今週中にも設置完了するのか。  
 A. 順調にいけば今週中にパネルの設置は完了すると思うが、最終的には排気システムの試運転等もあるので、全ての装置が設置完了するのは10月中を見込んでいる。
- Q. ライトや排気システム等については、パネル設置と並行して設置しているのか。  
 A. その通り。今後については、パネル設置が完了した段階で、電気を流すことでライトの点灯確認や、排気システムのファンを稼働させる試運転等を検討している。
- Q. 1号機格納容器スプレイ系配管の切断作業を実施している中で、最大の水素濃度は。  
 A. 窒素封入しながらの切断作業であり、水素濃度計はほぼ0%を指示していた。
- Q. 原子炉建屋地下1階の半分まで水が貯まっているとすると、圧力抑制室に穴が開いていて、そこから原子炉建屋の地下に水が流れている状態になっているのか。  
 A. 実際に穴が開いているのかどうかは確認できていないが、圧力抑制室および格納容器を貫通する配管のシール部分から水が漏れて原子炉建屋地下に入ってきていると考えている。

以上